

フィールド風

宮田 守男

(248)

日本が少子高齢化社会にあることは、誰もが知る「常識」である。だが、その実態を正確にわかっている日本人はいittたいどれぐらいいいるだろうか。の

りやすく伝えるため
に、カレンダーのよ
うに、一覧できる年表で
メッセージを伝えたこ
とだ。

2020年女性の半
数が50歳超え、202
4年全国民の3人に1
人が65歳以上、203
9年火葬場が不足、2
040年自治体の半数

人口減少危機を「静かなる有事の進行」だと真剣に捉えてみませんか

河合雅司さんは、1963年、名古屋市生まれの産経新聞社論説委員だ。問題と本質の深刻さを分か

が示すように政府のデータや推計値を用いて日本の先行きを展望した予言書だ。未来予想をするには難しい

が消滅、2042年高齢者人口がピークを迎える。の予想が表紙 факторを飾る。タイトル

64歳の勤労世帯の激減に伴う社会の支え手の不足、これら問題が互いに絡み合って起きる

が、「人口」に限っては、かなり正確に未来予測ができる。成熟国家となつた日本が突如多産な国に戻ることは考えづらい、しかも母親となるうる若い女性が減少する実態からは避けられない、いるだろうか。の

言い切る。

河合さんが指摘する

が続くなら、それを前

提とした社会に作り替え、拡大路線でやつて

きた従来の成功体験から戦略的に縮むことで

あり、多くの痛みを伴う改革が迫られると提

言する。年金制度は支

給開始年齢

が、70歳以降との情報

が氾濫し

医療費や介護保険で負担額での制

度改悪が身近な問題と

感じ取っている高齢者

の切実な声が聞こえてくる。

若い力が乏しくな

人口の奪い合い政策の展開では、社会全体が機

能不全に陥ると指摘す

る。



雑誌「週間現代」でも人口問題を大きく取り上げて報道。自らが直面する課題でもある

人口減少。これらの問題が社会のあらゆる場面に影響する未来予測は、想像を超える。現は、想像を超える。現

在全国で展開する、人

50年頃には国土の約2割が無居住化、外国から大量の人々が移り住めば、武力なしで実質的に領土が奪われる

考えさせられる。是非、多くの皆さんに購読を薦めたい著書でも

あった。

(NPO法人信州地域

・白馬村森上)